



川崎いのちの電話

題字：初代理事長 近藤俊朗

特集 弱さでつながる ～ 失敗は成功へのプロセス ～



二子玉川駅ホームから望む武蔵小杉高層ビル群

ひとりで悩まずに電話相談
044-733-4343



vol. **109**
2023. 11. 1

CONTENTS

特集 弱さでつながる ～ 失敗は成功へのプロセス ～
ホッとスペース中原 佐々木 炎さん、福正 大輔さん

ほっとひといき あなたも腹話術やってみませんか？

インフォメーション 第39期電話相談ボランティア募集
チャリティー寄席「柳家三三独演会」(2024年3月16日開催)

自死遺族ほっとライン
044-966-9951
第2・4木曜：正午～午後4時

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)
0120-783-556
毎日 午後4時～夜9時
毎月10日 午前8時～翌朝8時

インターネット相談
<https://www.inochinodenwa.org/> (3回制)
<https://www.inochinodenwa-net.jp/> (1回制)

社会福祉法人 川崎いのちの電話



弱さでつながる ～失敗は成功へのプロセス～

NPO法人 ホッとスペース中原

「『ホッと』とくつろげる場所を提供したい」と考え、活動を始めて25年になるホッとスペース中原。高齢者、子育て・子ども、しょうがい者、触法者など幅広く支援に取り組んでいます。「弱さでつながる」という基本理念や活動について、代表の佐々木さんと職員の福正大輔さんに聞きました。

誰でも、どんな人にも開かれた「ホッとスペース中原」

「ホッとスペース中原」は、JR 武蔵中原駅から歩いて7分、閑静な住宅街の中にあります。屋根に十字架があるのが目印の4階建ての施設で、中原キリスト教会でもあります。

玄関スペースは車椅子が楽に通れるほど広く、もちろんバリアフリーです。1階の道路に面した部屋は全面ガラスで、明るく開放的でした。ここでは、日中活動の利用者が過ごし、訪ねた時は、グループゲーム、手作業を楽しんでいました。利用者が自分のペースでゲームや活動をしています。テーブルは活動しやすく安全に配慮した六角形。

設備は介助者にも使いやすいよう細部まで配慮しています。トイレは利用者を背後からも支えられるよう広くスペースをとり、風呂場も介助者が四方から介助できるなど工夫がしてあります。ここでは同性の介助が原則です。

この1階スペースは地域の人に開放し、週1回

の夕食会や居酒屋としても活用しています。日曜日は教会の礼拝所としての役目も果たしています。

エレベーターで2階に上がると、介護度の高い人の活動スペース、居住スペース、職員の部屋、応接室があります。居室は個室で、小さなキッチン、トイレが完備されています。この日は、活動スペースで認知症の人が献立表に名前を貼る作業をしていました。

3階、4階は居住スペースになっていて、単身者、夫婦、親子が入居しています。夜間には職員が不在なので、24時間介護を必要とする人の受け入れは難しいそうです。ここから歩いていける場所に5ヶ所のグループホームを運営し、必要としている人のニーズに応えています。

利用している人たちの穏やかで、落ち着いた表情と職員の丁寧な関わり方がとても印象に残りました。

～活動内容～

○高齢者介護支援(通所介護、訪問介護、在宅介護支援) ○しょうがい者支援(グループホーム、ヘルパー派遣) ○子育て・子ども支援(「親子ふれあい広場」、ヘルパー派遣、学習支援) ○権利擁護支援(成年後見制度) ○触法者支援 ○ホッとカフェなど28の事業を行っています。利用者の生涯にわたる支援として近くに基地も有しています。

佐々木さんと福正さんのインタビュー

「弱さでつながる」というキーワード

佐々木:「弱さでつながる」というキーワードですが、最近はその考えを深化させています。「もろい」「弱い」というと「強い」が対極にあります。そうすると、「弱い者」を「強い者」が助けてやる、弱い者たちが強くなっていくことが良いことになります。そうではなく、社会全体が弱く、もろい存在であるという意味での「弱さ」という考えに至りました。

一人ひとりに合ったサービスを提供しようとすると、国の制度だけでは賄いきれません。本来、制度はその人が幸せになっていくためのものなので、公的な制度は積極的に利用します。制度は使えば使うほど良くなっていくからです。制度を良くしていく責任を私たちは負っています。

福正:「つながる」というキーワードですが、公的な制度につながっている人は強い力で支えることができます。制度とうまくつながれなかつ



佐々木 炎 (ささき ほのお)

1965 年静岡県生まれ

川崎市にある中原キリスト教会牧師

1998 年教会を拠点にした地域福祉活動「ホッとスペース中原」を始め、代表を務める。介護福祉士、主任介護専門員の有資格者、2009 年から東京基督教大学・非常勤講師、社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事。主な著書に「人は命だけでは生きられない」

福正 大輔 (ふくしょう だいすけ)

1982 年広島県生まれ

「ホッとスペース中原」(しょうがい部門主任・共同生活援助・自立準備ホーム管理者) 介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師他、演出家、俳優、プロジェクト・ドロブラ代表



たり、こぼれ落ちた人たちに対して、僕たちが地域の人たちの力を借り、それをつなげて支援していきます。例えばフードパントリーです。食材や日用品を集めて渡す活動を月1回行っています。地域のコンビニや地域の人たちに寄付してもらい、助成金などで物品をそろえて渡していきます。お金は僕たちの前を通り過ぎていくだけですが、つながりを手繰っていくと僕たちのやっていることは、公的なサービスとボランティア的な働きの中でつながりを作っているのです。

職員はほぼ有資格者

佐々木:職員は80名でほぼ全員が有資格者です。ここに入ったら資格を取ってもらい人材を育成していきます。どんな人(例えば、触法者、しょうがい者など)でも誰かの役に立ちたいと思った時、資格を取っておくと活動の範囲が広がります。誰もが資格を取れるよう、背中を押してやります。資格を取ってもらえば、質の良いケアが提供でき、職員にとってもやりがいのある仕事になっていきます。そうすれば人材不足も解消していくと思います。他の介護施設では離職率15%くらいと言われていますが、ここでは昨年一般職の離職はありませんでした。私たちは仕事を通して、どんな社会を作りたいか、私たちはどんな仕事をしたいのか、whyという問いをいつも自分の中に問いながら、ソーシャルインクルージョン、誰もが見捨てられない、排除されない、誰もが愛される社会



を作るために研修を重ねています。そういう意識の高さも自分たちの強みだと思っています。

福正:必要とする人がいれば、こちらから選ぶことはしません。いろいろな人から問い合わせがありますが、先日も「刑務所の中でこのことを聞いたのだけれど」と家族からありました。ただ、お見合いと一緒に、体験や見学をしていく中で、合う合わないの相性があります。あとはハード面での条件もあります。グループホームの中にはバリアフリーでない所もあります。そんな時は、お互い意見を出し合うことを大事にしています。相談しながら、話し合っ、話し合っ決めていきます。入居希望があっ、部屋の空きがなければ、地域の不動産屋を回っ部屋を探します。しかし、自分たちも万能ではないので、ここまでならできずとはっきり伝えます。いろいろな条件をお互いにすり合わせていくためにも、対話の技術が重要です。そのために常に研修でお互いを高め合っていくのが大事だと考えています。

佐々木:利用者の一生を見るということで看取りも行っています。ここは教会ですが宗教にはこだわらず、本人の希望する形で見送り、近所に墓地も持っています。

人生の失敗、つまづきを活かす場所は必ずある

佐々木:父親の影響でしょうか。父親は教会には通っていませんでしたが、教会に影響を受けた思想は持っていました。私は若い頃に暴行事件を起こしました。高校3年の時に教会に行き、そこでの人との出会いが大きかったと思います。学力や能力で見るのではなく、そこにいるだけで人は素晴らしいということを学びました。生きづらさは何かの役に立つのではないかという目線で人を見ていき、人は誰も役割をもって生まれたのだということに気付きました。

福正:僕は薬物使用で警察に逮捕され、友達を失いました。小学校の非常勤講師をしていた時だったので報道もされました。このスティグマ(烙印)は一生ついて回ります。もう人生終わったと思いました。これからどうやって生きていこうかと思っていた29歳の時、介護の学校の講師として来ていた佐々木さんと出会い、「ホッとスペース中原」を知りました。ここは「一人ひとりを大切にしていって、人生の失敗やつまずきを活かす場所です」と言われ気持ちが楽になりました。普通の見方とは全く逆ですよ。

あなたはそのまま、生きていていいのです

佐々木:生きづらさというのは、学習ですね。誰かを癒したり、誰かの役に立つために、今自分は学習しているのだと思います。それを経て生きづらさや失敗が誰かの役に立つ。誰かを癒すために、自分が生かされていると思う時が、人生の中に必ずあります。だから「今あなたはそのまま生きていていいのだ」と伝えたいですね。失敗から学ぶことは多いですから、人生には失敗はなく、成功へのプロセスにしかすぎません。人は何でつながるか。強さでつながるとみんな競い合い、争いもあります。でも弱さでつながると、マイナスとマイナスはプラスになっていき、お互い助けあったり人間本来の力が発揮できます。

福正:くじけている人、落ち込んでいる人の中にも小さな光のようなものがあって、それを見つけていくのが楽しいですね。それを見つけるのが、専門家としての技術だと思います。例えば、「いのちの電話」では、「死にたい」と電話をかけてきた人に、「電話をかけてきたことが素晴らしい、電話をくれてありがとう。そのエネルギーに感謝して、今この時を一緒に過ごしましょう」と言えるでしょう。どうしてもなくつらいけれど、一生懸命表現する中で、何か希望の光があり、それを手繰り寄せていきます。自分の体験をよく話します。どの人にも人に言えない人生でのつまずきはあると思います。逮捕歴とか、性感染症があるとか弱い種を持っていますので、それを言うと相手に響きます。ケアを受けたことがあり、みんなに助けられています。今も周りの人たちに助けてもらいながら、やっとこさ人生を歩んでいますというような話をします。周りから助けられているということに敏感でありたいと思っています。

佐々木:私たちは実践の場で働いていますので、地域や行政などいろいろな機関とネットワー

クが作れると、動きやすいです。困っている人たちと私たちをつないでいくのが必要だと考えます。必要な所にはこちらから働きかけ、アウトリーチで仕掛けていきます。行政から紹介されれば、必ず行きます。大事にしているのは、「何かをしてあげる」doingではなく、「一緒にそこに生きる、共にする」beingです。私とあなたがそこにいるだけで、影響しあいます。お互い響き合います。そこから本人が気づいていけるよう、関わっていくのが大事なのです。ただサービスにつなげればよいとは考えません。大切なのは、地域の中で一緒に生きていくことです。細かくつながっていれば困ったときに来てくれます。近寄りすぎず、そばにいたことが大事なのです。

福正:相談者が断る余白を残しておくのも大事です。「お助けしましょうか」「いえ大丈夫」と言われても、断る力があるのだと肯定的にとらえます。助けが必要だと思ったら、緩やかに歩み寄っていきます。関係性を工夫しながら作っていくのが専門性だと思います。

佐々木:プロは「存在職」であるべきです。そうい

うことを私たちは究極に目指しています。自分たちはただ存在するだけで、その人が何かを得ていく。「いるだけ」という意味で存在職です。何かをするわけではないが、私たちがいることによって安心できる、見えないけれど安心感という存



在が一番大事なので、プロ中のプロの仕事だと思います。支援を必要としている人には、制度とか年齢とかしょうがい者、地域などの境界線を引かずに支援していきます。支援に境界線はありません。

福正:地域で困っている人がいれば、僕たちはネットワークでつなぎ、必要があれば新たに作って一緒にやっていきます。制度がなければ、新たに制度を作る。クリエイティブに創出し、気概をもってこの仕事に向き合っていきます。

あなたも腹話術やってみませんか？

腹話術を知っていますか。どこかで見たことがある方もいるでしょう。人形が話をする芸で、人間は口を閉じた状態で演技をします。

腹話術の魅力は、幅広い層の人に喜ばれる芸です。人形がまるで生きているかのように話す、人形ならではの不思議な魅力。初めて見る人はびっくり、子どものころ見たことのある人は懐かしがります。演芸はもちろん、教育、医療、福祉などにも活用できます。一人でもできるのもこの芸の特徴です。

「腹話術の会きずな」という会があります。この会は、1986年しろたにまもるが結成した「京浜腹話術の会」を前身として、2005年に「腹話術の会」として装いも新たに発足しました。川崎を拠点にして各地で上演活動をしたり、講座をひらいたりしています。会員は関東地域の人々が中心ですが、北海道から九州まで全国各地にいます。会員約100名。10名の幹事が毎月会議を開いて民主的集团的に運営されているのが特徴で

す。プロの腹話術師で、日本腹話術普及協会理事長で会の代表のしろたにまもるをはじめインストラクターが講師を務めています。

「腹話術の会きずな」は、高齢者施設、福祉施設、保育園、学校などの諸施設をはじめ、各種集会、イベント、お祭りなどさまざまな所に出演しています。

この会の7つの特徴は、①「楽しく、仲良く、元氣よく」がモットー。②親切に教え合い、育て合う。③公平・平等・みんなで運営。④垣根を作らず、他のサークル流派とも交流。⑤被災地などへの激励公演。⑥「きずな通信」を毎月発行、遠隔地の人にも役立つ内容。⑦講師のアドバイスや台本添削も。「きずな」の例会は、毎月第3日曜日午後13:30～17:00川崎市総合自治会館(武蔵小杉駅)で行っています。

(きずな)

※写真はしろたにまもる代表



知ることからはじめよう

こころの情報サイト

国立精神・神経医療研究センター保健研究所(東京)が、こころの健康や病気支援、サービスに関する情報を、専門家が解説するウェブサイト「こころの情報サイト」を開設しました。

チラシの冒頭では、ウェブサイトをこのように紹介しています。

ストレスやこころの病気という言葉をよく耳にするようになり、こころの健康づくりは身近なテーマになっています。こころの病気に適切に対処し、ご自身や周囲の方たちがこころの病気を抱えても安心して暮らしていくために、まずは、こころの健康や病気について知ることから始めてみましょう。

サイトでは、下記のような項目をクリックすると、専門家が詳しく解説しています。
「ストレスとセルフケア」「こころの病気について理解を深めよう」「こころの病気を知る」
「治療や生活へのサポート」「精神保健に役立つ情報」
こころの情報サイトのURLは、 <https://kokoro.ncnp.go.jp/>

あなたの力を貸してください～第 39 期電話相談ボランティア募集～

いのちの電話では、一緒に活動してくださる仲間をお待ちしています。相談ボランティアになるためには、公開講座を 1 回以上受講後、面接や適性テストを経て養成研修に進みます。

☆公開講座（受講料無料）

どなたでも受講できますが事前に申し込んでください。

- 【日程】 ① 2/1（木）18:45～20:45
張 賢徳「大切な人を自殺から守るために」
② 2/8（木）18:45～20:45
渡邊啓二「聴く力 ～人をいやすもの～」
③ 2/17（土）14:00～16:00
引土絵未「弱さを認めない社会と生きにくさ」

- 【会場】 ①・② てくのかわさき
③ 生涯学習プラザ

【受講申込】 募集要項又は公開講座チラシの「2024 年度公開講座申込書」を事務局まで FAX 又は郵送。ホームページからも申し込み可。

☆養成講座

【応募資格】 23 歳以上（2024 年 4 月 1 日現在）で、公開講座を 1 回以上受講した方。

【研修期間】 2024 年 5 月～2025 年 8 月予定

【研修費用】 54,000 円（予定）他に宿泊研修費用

*公開講座及び養成講座の詳細は、決定次第、川崎いのちの電話ホームページに掲載します。

【申込先】 川崎いのちの電話事務局

FAX：044-722-7122

郵送：〒211-8690 川崎市中原郵便局私書箱 17 号

ホームページ：上記

*募集開始は 2023 年 12 月 16 日（土）

募集要項とチラシは川崎市内の市役所・区役所・図書館などの公的な場所に置く予定です。

川崎いのちの電話チャリティー寄席 柳家三三独演会 2024 年 3 月 16 日開催

【日時】 2024 年 3 月 16 日（土）13:30～

【会場】 麻生市民館（小田急線新百合ヶ丘駅下車北口徒歩 3 分）

【木戸銭】 前売り 3,500 円（当日 4,000 円）全席自由

※未就学のお子様はご遠慮ください。

【出演者】 柳家三三、春風亭かけ橋、金原亭駒介（俗曲）桂小すみ、（三味線）森本規子

【チケット購入方法】

①郵便振込（申込日 2024 年 1 月 7 日から）

通信欄に住所、氏名、電話番号、希望枚数、合計金額を記入して、口座へ

さんざ

お振込みください。入金確認後チケットを郵送いたします。発送までに 3 週間ほど時間がかかる場合もあります。また振り込まれた後、返金はできませんのでご了承ください。

（郵便振替口座）00200-1-130682「いのちの電話事業推進委員会」

②チケットぴあ（2024 年 1 月 7 日より発売）

・セブンイレブンで直接購入（Pコード：522239）

・ホームページ(<http://t.pia.jp/>)から申し込み購入（Pコード：同）

「リサイクル募金 きしゃぼん」でご寄付を

川崎いのちの電話では新しい寄付方式「リサイクル募金 きしゃぼん」で寄付を募っています。眠っている書籍・CD・ゲーム・切手などが電話相談の運営に役立てられます。詳細はホームページ kishapon.com/kawasaki-inochinodenwa/

資金ボランティアとしてのご支援を！

川崎いのちの電話は皆様の温かいご支援によって運営されております。多くの方のご協力をお願いいたします。

賛助会費・一般寄付金とも所得控除など税制上の優遇措置の対象となります。

① 賛助会員（年会費）

② 一般寄付（金額、回数を定めません）

法人	10万円	5万円	3万円	1万円	
個人	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円

【振込先】 ■郵便振替 00240-2-36798
社会福祉法人 川崎いのちの電話

寄付感謝報告

2023 年 5 月～
2023 年 8 月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

【個人】

(5月)	高村 真	横川 桂子	鈴木 恵子	佐藤 美津子	富田 美津子	松島 太郎	(8月)	笠原 光
小松 智	秋場 真由美	安田 静	享二	橋本 由子	中由 光	磯江 明美	内田 喜	栗澤 由
大石 眞理	境田 真由	安達 高	成功 勉	伊藤 素雄	坂本 秋	二村 清美	山本 直	近藤 八
近藤 百合	(6月)	賢次	(7月)	安藤 勝雄	西村 治	山口 文	大鋸 関	松村 清
尾根 恒	加藤 紹大	河合 束	久弘	牧野 洋久	河合 眞	山鹿 新	金子 圭	匿名 9 名
岩田 聖一	山田 美和子	吉田 立木	村上 カズ	北條 秀衛	松本 純己	井上 美千代	岡田 修二	
関 聖	山本 直正	大塚 ふみ子	藤嶋 とみ	信二	中島 泰	長塚 いつ	平島 親	
金子 顕	瀧野 修	栗井 清			小林 美年	濱田 徹	斉藤 加奈	
米山 信二	二村 清美				中山 厚夫	伊藤 初美	武田 信平	

【団体】

川崎生田ライオンズクラブ (株)多摩設計 (株)由貴工務店 高津区鎮座白髭神社 (有)太平商事 (有)坂本木工所 (有)小林総業
リサイクル募金きしゃぼん 共同購入 募金箱

【10 万円以上の個人・法人及び各種団体】

磯部 尚哉 (128,000 円) 川崎橋ライオンズクラブ (50 万円) 川崎多摩川ライオンズクラブ (10 万円) (株)アドバンスホーム (10 万円)

ライオンズクラブ国際協会 330-B 4R-1Z (221,240 円) 堂本製菓(株) (10 万円) 四つ葉グローバルクラブ (10 万円)

国際ソロプチミスト川崎 (10 万円)

合計 2,123,969 円

編集後記

福正さん主演の映画「カミングアウトジャーニー」を見て来ました。上映後のトークライブには「クレプトマニア」（病的窃盗）の当事者も参加し、カミングアウトしたときの気持ちが話されました。カミングアウトすることはとても勇気のいることだと思います。アウティング（暴露）で自殺者も出る今の社会。ありのままを受け入れ、共にいる、傍にいたい人でありたい。（ＹＹ）

佐々木さんの著「人は命だけでは生きられない～介護現場で、魂に寄り添う牧師の奮闘記～」を読み、是非お会いしたいと思いました。介護の原点が書かれている本です。佐々木さんは壮絶な生い立ちで暴走族の経験もありますが、人との出会いで牧師の道に歩まれました。「人生に失敗などない。失敗は成功のプロセスにすぎず、マイナスとマイナスはプラスです」との言葉に感銘を受けました。いのちの電話に掛けてくる人にも、この言葉を贈りたいです。（灯）